

(厚生文教常任委員会 行政視察) 報告書

平成30年11月28日

白石市議会議長 志村 新一郎 殿

議員氏名 佐藤 秀行

下記のとおり行いましたので報告いたします。

期 間	平成30年11月13日(火)～11月14日(水)
調査・研修先	愛知県一宮市・静岡県藤枝市
調査事項 (研修事項)	ICT技術を活用したプログラミング教育等の取り組みについて 「健康・予防日本一のまち藤枝、づくりに向けた 「ふじえだプロジェクト」について
対応者・講師等	一宮市教育委員会教育文化部学校教育課指導主事 池山清二様他 藤枝市健康福祉部健やか推進局健康企画課課長 平澤孝之様 他
概要 ① 背景・目的 ② 内容・特色 ③ 主な質疑 ④ 考察 (感想、課題、 政策提言等)	<p>去る11月13日(火)から14日(水)まで2日間(1泊2日)厚生文教常任委員会で行政視察を行った。</p> <p>初日は愛知県一宮市で行政視察を行った。テーマは「ICT技術を活用したプログラミング教育等の取り組みについて」である。</p> <p>人型ロボット「Pepper」を使ったプログラミング教育中心に話を伺った。これは平成29年4月より、Pepper社会貢献プログラムスクールチャレンジに参加し、市内の小学校15校、中学校12校で、人型ロボット「Pepper」を使ったプログラミング教育を進めているということである。早期の段階でプログラミング教育を行うことで、「ICTを活用する力」「論理的思考力」を養うものである。</p> <p>プログラミング教育の経緯は、2020年度に改訂の小学校学習指導要領にて必修化され、単にプログラミングの技術を習得することではなく、論理的・思考的に課題を発見し解決していくプログラミング的思考を身につけることを目的としている。プログラミング教育の効果については、いろいろ意見がある。勉強する過程で、論理的思考力や問題解決能力など様々な普遍的な力が養われる。その一方で指導する教員にどれだけのスキルが身につけているか不安である。また、教員の多忙化が解消されないなどもある。</p>



白石市においては、小中学校とも内容は様々であるが、一部の学校で、一部の教職員により既にプログラミング教育が行われている状況である。

一宮市は、人口385,777人である。名古屋市の北西に位置している。教育の情報化について一宮市では、情報活用能力の育成、ICTを効果的に活用した分かりやすく深まる授業の実現、ICTを活用した総合型校務支援システムの導入等による効率的な校務の遂行という3つの側面を通じた教育の質の向上を目指している。

一宮市立小中学校のICT環境整備について、学校現場ではそれぞれ校務用パソコンは教職員一人一台配備。普通教室に実物投影機、プロジェクタ、教育用PC、デジタル教科書。そしてパソコン室には40台の児童・生徒用ノート型PCが完備されている。

小学校での情報教育は、総合的な学習の時間に行っている。中学校での情報教育は、総合的な学習の時間と技術科の時間に行っている。小学校では情報モラル教育が大切であるということから、全学年年間2時間程度授業を行っている。全般的に保護者と児童・生徒は興味関心をもって取り組んでいる。教員のICT活用研修については、平成29年度を例にとると、初任者研修、夏季集中研修、冬季研修を実施し、教員の力量の向上を図っている。また、情報モラルに関する教員研修の実施として、夏季集中研修の中に、教職経験2～10年目の間に必ず受ける研修として位置付けている。プログラミング教育については、小学校2校、中学校1校にタブレット(各校10台)を配置して、平成28年度から一宮市独自の研究指定として実施している。平成30、31年度も継続する。平成28・29年度文部科学省の研究指定を受けている。Pepperを活用して、小中学校(27校)でプログラミング教育を実施(Pepper社会貢献プログラムスクールチャレンジ)。市主催の、小学5・6年生を対象とした希望制の「わくわくプログラミング教室」も行なっている。また、Scratchを活用し、小学生に体験させて論理的に動かし、プログラミング教育が行われている。Pepperについては、ソフトバンクから小学生部門、中学生部門、部活部門それぞれに、こういうプログラムを作るというテーマが与えられる。市内のコンテストで1位になった学校のデータをソフトバンクに送る。ソフトバンクで最終選考を行い、各部10チームが全国大会でプレゼン審査に進む。優勝チームには視察旅行が与えられる。

一宮市は、「めざす子ども像」を定め、その実現のために「一宮市学校教育推進プラン」を策定している。5つのプランがあり、そ

の中に、4. 未来に生きる力育成プランがある。情報社会の進展に主体的に対応できる力を育てるという視点のもと、プラン実現のための施策の一つとしてプログラミング教育がある。児童生徒に情報モラルを身につけさせるとともに、必要な情報を適切に活用する学習を進めている。このように、一宮市はこのプランをもとに教育委員会および各学校は、具体的な行動目標を示し、絶えず評価を加えながらその実現を目指して取り組んでいる。

小学校では2020年度からプログラミング教育が必修化される。子どもたちのICTを活用する力、論理的思考力を養うとしている。子どもは理解が深まるにつれてさらに興味を持つし、習い事として保護者の関心にも高いものがある。小学校では今年度道徳が教科化され、評価についても準備が忙しい。今後英語も教科化される。プログラミング教育について、多くの教職員が未経験の分野であり、不安を募らせている。教職員の事務負担を軽減する、子どもと向き合う時間を確保するなど、教師の多忙化解消に向けた施策も必要であると思われる。白石市においても、一部の学校で、一部の教職員により取り組みが行われている状況である。今後、指導教員の力量の向上を図っていくことも大切であると考えます。

一宮中央図書館を見学した。基本方針は、市民や地域の知的・創造活動を支える参加型図書館として、図書館ネットワークの中核拠点としての機能充実を図ること、市民生活やまちの課題解決に資する、高度で専門的なサービスを提供すること、そしてにぎわい・ふれあいの場として交流・情報機能を充実することを目指している。5階児童書エリア、6階一般書・視聴覚エリア、7階一般書・参考図書エリアになっている。全体的に、だれもが使いやすく快適に利用できるよう、また、あらゆる人が自由に読書を楽しめるように施設・設備面に配慮されている。書架照明や閲覧機のライトはLED照明を使用している。

二日目は静岡県藤枝市に行政視察を行った。テーマは「健康・予防日本一のまち藤枝、づくりに向けた「ふじえだプロジェクト」についてである。

藤枝市は、平成23年度から5年間、転入超過を続けている。人口145,652人で、富士山静岡空港まで25分、など交通の便も良い。

平成24年度に「健康・予防日本一、ふじえだプロジェクト」が、第1回健康寿命をのばそう！アワード自治体部門 厚生労働省健康局長優良賞を受賞。ここからすべてが始まった。

推進体制として、市民・事業者・行政が一体となって推進。守る健康（発症予防・重症化予防・地域保健医療）として、藤枝市民は健康関心度が高い。特定健康診査受診率が高く、静岡県内人口10万人以上の市の部で第1位。内臓脂肪症候群（メタボ率）が少ない。静岡県全国2位の少なさ、その中で藤枝市はトップクラスの水準。がん検診受診率も高い。また、地域から1,000人の保健委員を委嘱。特長として、開始から50年、自治会の枠組みで30年が経過している。自治会の組織の中に組み込んだ。自治会長、町内会長はあて職であり250名になる。女性保健委員は60～80世帯に一人で、自治会組織を基盤に、市民の2万人が経験者である。受診率が高い理由がここにある。

医師会との協力体制もある。健康にあまり興味のない無関心層には、楽しい、お得だという切り口から動機づけを行い、健康を推進していく。健康行動を起こしてもらうための施策として3つある。

プロジェクト1 歩いて健康「日本全国バーチャルの旅」。プロジェクト2 ふじえだ健康スポット20選。プロジェクト3 ふじえだ健康マイレージである。

1について、高齢世代は紙版でトライし、働き世代は健康マイレージWeb版でトライし、モチベーションの維持のために、1万km完歩者を表彰し、PRする。他にもいろいろなコースを設定している。

2について、地域資源の魅力発信を健康の切り口にする。藤枝をPRできるスポットを公募し、全国から1,200件応募があった。その中から、日常の仕事や育児の疲れ・ストレスから解放されるなど、楽しんで健康になれるようなところや、心身の健康の維持・増進に繋がるところ、そこにいくだけで癒されるなど元気になれるようなところ、美容、食による健康に繋がるスポットを20選した。

3について、18歳以上の藤枝市に在住・在勤・在学している人が参加対象である。健康行動でポイントを貯め、2週間以上実践し、100ポイント貯まったら申請する。「ふじのくに健康いきいきカード」協力店でカードを提示すると、特典が受けられる。協力店は1,027店舗である。現在1,993人が参加している。

平成27年11月から、4K（健康・教育・環境・交通安全）に拡大して「ふじえだマイレージ」を開始。「賢く食べて健康」～C級グルメグランプリ～。これは、これまでの「楽しく歩いて」をテーマとした「運動」に加え、「賢く食べて健康」をテーマとした「食事」の両面から健康意識を高めるとしている。同じく、～野菜を食べて健康になろう～という取り組みで、多品目の野菜摂取と摂取

量の増大や藤枝産農産物の消費拡大を推進することをねらいとした。基本理念は、「市民一人ひとりが安全・安心に健やかに暮らせ、産業とまちが健全に発展し、社会貢献活動が活発で地域全体で支え合う「都市」と「ひと」が元気なまち」である。藤枝市が目指す「健康都市」の根底を成すものは、やはり「人の元気・活力」であり、その礎には「からだの健康」と「こころの健康」を要素とする生活の質の向上が必要不可欠である。運動・食・こころ（体）が基本、根幹にあり、地域・企業・家庭が一体化し、真の健康都市ふじえだを実現する。

課題として、参加者を増やしたい。企業に入り込んで家族にPRし、参加者を増やしたい。底辺を広げていくこと、そして今後とも企業と連携を図っていくをあげている。藤枝市は、教育についても先進的に取り組んでいる。全国学力学習状況調査においても、小学校の算数Bが全国平均である以外は、すべて全国平均を上回っていることから、藤枝市の取り組みが全てに繋がっているように感じる。宿題の実施率、朝食の摂取率、何よりも基本的な生活習慣が身につけているという結果が、成績向上に繋がっている。藤枝市の取り組みの中で、本市においても参考になることがあるので、白石市でも何かしら取り組むことができればと考える。